

海風社関連資料総合目録及び解題

与小田 隆 一

A General List of Materials on Haifengshe

Ryuichi YOKOTA

【キーワード】 海風社 『庸報』 『益世報』 『詩訊』 『烽火』 『詩歌小品』
『詩訊月報』 『海風叢書』 『詩歌雑誌』

解 題

天津を拠点に詩歌による抗日救国運動、すなわち「国防詩歌」運動を展開した海風社は、陥落直前期（1936年～37年7月）の華北を代表する新文学結社であり、また全国規模の「国防詩歌」団体である「中国詩歌作者協会」の主力でもあった。⁽¹⁾

本稿は、海風社結成の母体と思われる「庸報」の二種の文芸副刊（『詩訊』、『烽火』）、海風社の編集による二種の文芸月刊誌（『詩歌小品』、『詩訊月報』）、叢書（『海風叢書』）、新聞の文芸副刊（『益世報』副刊『語林・新詩專号』）の総目録である。

上記に加え、海風社が主力となった「中国詩歌作者協会」の会刊『詩歌雑誌』や、いずれも当時の天津の有力紙であった「庸報」と「益世報」に掲載された海風社メンバーによる著作の目録、更には「庸報」、「益世報」に掲載の海風社に関連する資料、記事の目録もあわせて収録した。

なお、著者名については、ペンネームを使用している者が多いが、本名が明らかな場合や、他に常用するペンネームがある場合は、括弧内にそれらを表示した。

（『庸報』文芸副刊『詩訊』）

1936年9月の海風社結成の際、同社の代表となった邵冠祥が、同社結成の直前まで主編を担当したのがこの『詩訊』である。『詩訊』は1936年4月17日に創刊され、同年7月10日に停刊（中断）している。全13期のうち、第5期が例外的に5月18日（月）に掲載された以外は、毎週金曜日に1期ずつ、新聞の第3面全幅を使って掲載された。内容は詩歌が殆どである。

「庸報」については、国立国会図書館関西館所蔵のマイクロフィルム（同館製作）及び久留米大学御井図書館所蔵のマイクロフィルム（中国国家図書館製作）を参照した。

（『庸報』文芸副刊『烽火』）

『烽火』は、のちに邵冠祥とともに海風社の代表となる曹鎮華が主編を担当した。創刊は1936年4月16日で、以後同年7月9日の第7期（停刊）まで、隔週木曜日に新聞第3面の上半分に掲載された。詩歌作品が中心の『詩訊』に対し、こちらは大部分が評論で、

『詩訊』との間に理論と実作という役割分担が成立していたものと思われる。

（『詩歌小品』）

『詩歌小品』は、1936年10月10日に創刊され、翌37年3月20日の第1期第5・6期合刊まで、全6期（合刊号を含むため、実質的には全5期）が刊行された。第1巻第3期（36年12月10日）までは、主編者として邵冠祥、張秀亜、羅詩汀、徐寿雲の4名が記載されているが、誌名が『海風』に変更された第1巻第4期（1937年1月10日）以降の2期分には、主編者の個人名は記載されていない。

内容は、第1巻第3期までは、誌名の通り詩歌と小品文（隨筆）が中心であるが、誌名変更後は、それらに加え短編小説も掲載されている。

『詩歌小品』（『海風』）については、第1巻第1期、第2期、第5・6期合刊は天津図書館所蔵の、また第3期、第4期は中国国家図書館所蔵のそれぞれ原誌を参照した。

（『詩訊月報』）

『詩訊月報』は、「『詩歌小品』に掲載しきれない詩歌作品が多い」⁽²⁾ ことを理由に、1936年12月12日に創刊され、37年4月15日の第5号まで全5期（うち第3号、第4号が合刊のため、実質的には全4期）が刊行された。主編者は、創刊号では邵冠祥、徐寿雲、張鴻基、李靈の4名であったが、第2号（37年1月25日）からは、張鴻基以外の3名が外れ、魯奮が加わって2名となった。

内容はほぼ全てが詩歌で、『詩歌小品』のような小品文の掲載はない。

『詩訊月報』は、管見の限り中国国内の主要公共図書館、大学図書館での所蔵がなく、原誌未見のままである。目録については、『庸報』、『益世報』に掲載の紹介記事に基づいて作成したが、記事に全ての掲載作品が出ていない可能性もあり、恐らく各号とも数編の遺漏があるものと思われる。また、『益世報』は、参照したマイクロフィルム（次項『益世報』副刊『語林・新詩專号』参照）に不鮮明な箇所がしばしば見られ、そのため作品名或いは作者名が判読できなかったものもある。

（『益世報』副刊『語林・新詩專号』）

『益世報』の文芸副刊『語林』の紙面を、海風社が1937年7月12日～13日の両日全面的に借り上げる形で刊行された。7月30日の日本軍による天津攻略によって海風社は活動停止を余儀なくされたため、これが同社の編集による最後の刊行物となる。

『益世報』については、国立国会図書館関西館所蔵のマイクロフィルム（中国国家図書館製作）を参照した。

（『海風叢書』）

海風社は結成当初から、同社メンバーや、北京、上海、青島などに在住の同社と協力関係にあった文学者の作品を「海風叢書」として逐次刊行することを企図していた。『詩歌小品』にもほぼ毎号のように広告が掲載され、刊行予定のものとして全10種⁽³⁾ が挙げられているが、実際に刊行されたのは、いずれも同社メンバーである張秀亜の短編小説集『在大龍河畔』（1936年12月25日）、（李）簡戎、（黄）白瑩の隨筆集『海河、夜之歌』（37年

5月中旬)⁽⁴⁾、邵冠祥の詩集『白河』(37年7月15日)の3種のみであった。
「海風叢書」については、いずれも天津図書館所蔵の原本を参照した。

(中国詩歌作者協会会刊『詩歌雑誌』掲載の海風社メンバーによる著作)

『詩歌雑誌』は、1936年10月の中国詩歌作者協会結成と同時に創刊された。「月刊」と銘打っているものの、第2期以降の刊行は遅延を繰り返し、37年2月に第2期、同年5月に第3期を刊行したところで停刊した。

誌名は『詩歌雑誌』であるが、実際には詩歌以外にも、随筆や評論文が多数掲載されている。

『詩歌雑誌』については、創刊号、第2期は吉林大学図書館所蔵の、第3期は中国国家図書館所蔵のそれぞれ原誌を参照した。

(『益世報』副刊—『語林』、『益世小品』、『文芸週』、『別墅』及び『庸報』副刊—『另外一頁』、『新茶経』掲載の海風社メンバーによる著作)

天津の有力紙『益世報』、『庸報』は、それぞれ数種の文芸副刊を擁していたが、『益世報』では『語林』、『庸報』では『另外一頁』、『新茶経』(1937年3月に『另外一頁』から刊名変更)を中心に、海風社メンバーによる著作が数多く掲載されている。一部は1934年頃まで遡ることができるが、ここでは海風社の結成年である1936年、活動停止に追い込まれた翌37年の二年間のみについて採録した。

(『益世報』、『庸報』掲載の海風社関連記事)

『益世報』、『庸報』には海風社に関連する消息記事、評論記事も多い。これについても海風社メンバーによる著作目録と同様、1936年から37年の分を採録した。

I. 『庸報』文芸副刊『詩訊』総目録

創始号 1936年4月17日

邵冠祥 「写在始刊」(創刊の辞)

(黄)白瑩 「变」(詩歌)

羅詩汀 「北站」(詩歌)

馮白露 「老人的悲哀」(詩歌)

(江)岳浪 「工人的自訴」(詩歌)

曹鎮華 「乞」(詩歌)

(王)亜平 「書札」(書簡)

第2期 1936年4月24日

袁勃 「詩歌的要求」(評論)

欧陽麗娜(黄白瑩) 「越」(詩歌)

王亜平 「戦場月」(詩歌)

武田亜公作、蒲風訳 「走溜馬」(訳詩)

邵冠祥 「塘沽的雨天」(詩歌)
貝貝 (孟英) 「撈大地的人兒苦難挨」(詩歌)
王士瑗 「我的心」(詩歌)
洪紹秉 「漁」(詩歌)
羊羽 「詩壇的風」(消息)

第3期 1936年5月1日

冀春 「民歌」(詩歌)
燕歌 「綠洲」(詩歌)
王亜平 「新詩的技術」(上)(評論)
夜星 「航船」(詩歌)
李正冠 「糞夫的白白」(詩歌)
刀口 「短評 虹飛詩集」(評論)
本刊啓事 (告知)

第4期 1936年5月8日

王亜平 「新詩的技術」(下)(評論)
程心芬 「動」(詩歌)
唯健 「我是燈蛾兒」(詩歌)
(黄)白瑩 「黃沙天」(詩歌)
魏精忠 「送斌弟」(詩歌)
王士瑗 「星火」(詩歌)
虹飛 「過硤石憶志摩先生」(詩歌)
普慶 「声音」(詩歌)
温若心 「夜歸」(詩歌)
袁勃 「酒」(詩歌)
(盧)白炎 「是時候了」(詩歌)
「五月特輯徵稿」(告知)

第5期(「五月特輯」) 1936年5月18日

邵冠祥 「五月的季節」(詩歌)
木以圭 「美麗的五月」(詩歌)
孔昭深 「焯血煜煜日曆」(詩歌)
沈旭 「五月的中国」(詩歌)
(盧)白炎 「五月的陰鬱」(詩歌)
李嘉祿 「無声底調頌」(詩歌)
雨衡 「這五月」(詩歌)
(黄)白瑩 「五月」(詩歌)
羊羽 「詩壇的風」(消息)

第6期 1936年5月22日

蒲風 「蒲風詩集『生活』自序」
魏精忠 「別」(詩歌)
溫樹培 「問」(詩歌)
李正冠 「入市」(詩歌)
程心芬 「無題」(詩歌)
魯奮 「築路」(詩歌)
羅詩汀 「五月，前進吧」(詩歌)
雷雨前 「算命的」(詩歌)
羊羽 「詩壇的風」(消息)
「編後」(編集後記)

第7期 1936年5月29日

邵冠祥 「詩評：路工之歌」(評論)
史輪 「好人不当兵」(詩歌)
陳藍(張秀亞) 「夏季的風」(詩歌)
諾思金作，小三訳 「点滴聯合起来」(訳詩)
張露薇 「呵，我敬愛你！」(詩歌)
蔣有林 「供」(詩歌)
羊羽 「詩壇的風」(消息)

第8期 1936年6月5日

羊羽 「詩壇的風」(消息)
歐陽麗娜(黃白瑩) 「大眾唱本」(評論)
曹鎮華 「那麼平凡」(詩歌)
徐壽雲 「遐想」(詩歌)
羅德夫斯基作，小三訳 「痛擊」(訳詩)
(邵)冠祥 「代郵」(書簡)

第9期 1936年6月12日

羅詩汀 「詩歌漫話」(評論)
沈旭 「夜車中」(詩歌)
(盧)白炎 「花燭之夜」(詩歌)
(蔣)錫金 「一個人的死」(詩歌)
雨衡 「失踪」(詩歌)
Nekrasov 作，馮火訳 「俄國兵」(訳詩)
張振乾 「古城」(詩歌)
蔣有林 「路斃」(詩歌)
陳藍(張秀亞) 「詩札」(書簡)

第10期 1936年6月19日

- (邵) 冠祥 「編者の話」(序文)
袁勃 「詩評『鄉曲』叙事詩」(評論)
凌志 「遺棄的孩子」(詩歌)
魏精忠 「喊」(詩歌)
(趙) 一蚩 「古城夜曲」(詩歌)
(江) 岳浪 「咆哮了」(詩歌)
「曾為本刊執筆人詩集介紹」(資料)

第11期 1936年6月26日

- 詩訊編輯委員会 「前奏」(序文)
(蔣) 錫金 「洪雨」(詩歌)
(李) 簡戎 「装」(詩歌)
歐陽麗娜(黃白瑩) 「夜哭」(詩歌)
邵冠祥 「夜」(詩歌)
(邵) 冠祥 「代郵」(書簡)

第12期 1936年7月3日

- 水西村人 「読『六月流火』」(評論)
張鳳元 「暴風雨之夜」(詩歌)
(盧) 白炎 「農人歌」(詩歌)

第13期 1936年7月10日

- (黃) 白瑩 「『文学導報』上の詩」(評論)
燕歌 「街角の姑娘」(詩歌)
小三 「畏懼的朋友」(詩歌)
史輪 「夢」(一)(詩歌)

II. 『庸報』文芸副刊『烽炎』総目録

第1期 1936年4月16日

- 曹莽 「国防芸術建立的可能問題」(評論)
(曹) 鎮華 「劇の象徴」(評論)
莽鉄 「当前演劇」(評論)
逢萊 「天津劇評界」(評論)
伯克 「中国新文学前路試論」(一)(評論)

第2期 1936年4月30日

- 曹莽 「国防芸術前途の估計問題」(評論)
莽 「演劇通俗化討論」(評論)

宿懷亮，煒炎 「幾個前提的認識」（評論）
伯克 「中国新文学前路試論」（二）（評論）
「編後」（編集後記）

第3期 1936年5月14日

曹莽 「国防芸術内容と形式工具問題」（評論）
（曹）鎮華 「劇本の批判」（評論）
犀風，時玳 「幾個前提的認識」（評論）
伯克 「中国新文学前路試論」（三）（評論）

第4期 1936年5月28日

鐘礼，火煒，莽鉄 「關於『雷雨』」（評論）
曹莽 「国防芸術本質解明」（評論）
伯克 「中国新文学前路試論」（四）（評論）
「編後」（編集後記）

第5期 1936年6月11日

（曹）鎮華 「詩歌通俗化討論」（一）（評論）
孔昭深 「幾個前提的認識」（評論）
伯克 「中国新文学前路試論」（五）（評論）

第6期 1936年6月25日

寇賀 「悼高爾基」（評論）
（曹）鎮華 「詩歌通俗化討論」（二）（評論）
曹鎮華 「遊行前奏曲」（詩歌）
伯克 「中国新文学前路試論」（六）（評論）

第7期 1936年7月9日

劉鐘祥 「我們要活」（詩歌）
邵孤 「我們需要怎麼樣的文学」（評論）
朱葦 「劇本評介」（評論）
冷 「鄭果劇訊」（消息）
編者 「最後的幾句話」（終刊の辞）

III. 『詩歌小品』（『海風』）総目録

第1巻第1期 1936年10月10日

邵冠祥 「要說的話」（創刊の辞）
万曼 「論中国新詩的前途」（評論）
王統照 「青紗帳自序」（詩集序文）

- (黄) 白瑩 「悼高爾基」(詩歌)
臧克家 「追」(詩歌)
(雷) 石榆 「咱們要衝出敵人的煙幕」(詩歌)
王垂平 「致死者」(詩歌)
虹飛 「雨天」(詩歌)
虹飛 「故鄉無人」(詩歌)
(盧) 白炎 「把血和肉的堡壘築起」(詩歌)
廉又白 「想念」(詩歌)
袁勃 「過榆關」(詩歌)
曹鎮華 「人行」(詩歌)
張洛英 「影的詛咒」(詩歌)
江岳浪 「樵」(詩歌)
陳雨門 「西風」(詩歌)
林熙 「無題」(詩歌)
孟曉東 「霧」(詩歌)
張文麟 「戰場夜」(詩歌)
史輪 「太陽的群」(詩歌)
安一民 「那麼一天」(詩歌)
李華飛 「低訴」(詩歌)
洪紹秉 「遙遠的太陽和星星」(詩歌)
林林 「我曉得我」(詩歌)
張露薇 「海風」(詩歌)
Mecha Gold 作, Beibei (孟英) 訳 「一万二千万」(訳詩)
A.S. Pushikin 作, 魏晉訳 「ARION」(訳詩)
高爾基作, 于一丁訳 「海燕之歌」(隨筆)
張秀垂 「我的小屋」(隨筆)
吳雲心 「我的三個日子」(隨筆)
南雁 「暑中留痕」(隨筆)
徐寿雲 「北国的呼声」(隨筆)
張敬銘 「铸」(隨筆)
拜金 「高櫃台」(隨筆)
羅詩汀 「静静的河塘」(隨筆)
江寄萍 「夜」(隨筆)
夏雨琴 「夏晚散曲」(隨筆)
陳学藩 「灯下」(隨筆)
(李) 簡戎 「檻內」(隨筆)
邵冠祥 「舟山的漁村」(隨筆)
微晒 「在飢餓線上」(隨筆)
徐中玉 「秋日草」(隨筆)
袁勃 「評田間的中國牧歌」(評論)

「普希金百年忌」(消息)

第1巻第2期 1936年11月10日

「本社徵求近五年全国詩人作品」(告知)

(悼魯迅先生)

邵冠祥 「魯迅先生」(評論)

木以圭, 王亜平, 呉雲心 「悼詩三首」(詩歌)

牛健 「不是悼文」(評論)

王亜平 「我怎樣写十二月的風」(創作談)

曹鎮華 「詩歌的音樂性」(評論)

艾縷 「談小品文」(評論)

蒲風 「真理的船 序」(詩集序文)

田漢 「船娘歌」(詩歌)

万方⁽⁵⁾ 「淡漠了的事情」(詩歌)

李雷 「八月的滿洲」(詩歌)

羅詩汀 「牧羊的孩子」(詩歌)

張振乾 「艱難」(詩歌)

北鳴 「鐵匠」(詩歌)

孤帆 「農村的故事」(詩歌)

劉西蒙 「這所大都市」(詩歌)

葉菖 「小愛蓮」(詩歌)

邱野 「舖路」(詩歌)

貝貝(孟英) 「北寧線上」(詩歌)

巴鉄 「黑手」(詩歌)

冀春 「燭光」(詩歌)

邵冠祥 「白河」(詩歌)

(黄)白瑩 「我」(詩歌)

江岳浪 「災」(詩歌)

天佑 「火花」(詩歌)

天真 「要是我」(詩歌)

郭飛漱 「午夜歌」(詩歌)

何方 「長城行」(詩歌)

杜宇 「果爾蒙詩 兩首」(訳詩)

董秋芳 「西湖的夜」(隨筆)

田濤 「夜, 黎明」(隨筆)

張会川 「雨」(隨筆)

袁勃 「渡河之前」(隨筆)

徐寿雲 「夢」(隨筆)

(盧) 白炎 「書業商的悲哀」(隨筆)
王博習 「都市的夜曲」(隨筆)
張秀亜 「我要唱的歌辭」(隨筆)
征驛 「書室小記」(隨筆)
E. Zozniga 作, 于一丁訳「窒扶斯」(隨筆翻譯)
「編者的話」(編集後記)

第1卷第3期 1936年12月10日

「編者的話」(告知)
木以圭 「向大衆去學習吧」(評論)
邵冠祥 「詩歌的技巧与内容」(評論)
薇 「在大龍河畔序」(短編小說集序文)
李雷 「白雪頌」(詩歌)
葉菖 「失掉了好的伴侶」(詩歌)
王博習 「都說今年是豐收」(詩歌)
徐寿雲 「船上」(詩歌)
洪紹秉 「通航」(詩歌)
征驛 「一個学徒的死」(詩歌)
蒲風 「第一顆子彈」(詩歌)
游俊 「歌」(詩歌)
趙樹棠 「一個人的賭場」(詩歌)
素綺 「歌女」(詩歌)
夢丁 「木匠」(詩歌)
万方 「隔膜」(詩歌)
邵冠祥 「号声」(詩歌)
王敏超 「搶險」(詩歌)
子石 「晨的海」(詩歌)
陸纂 「自警」(詩歌)
麗尼 「給」(詩歌)
陳憲泗 「秋日小調」(詩歌)
葉賽林作, 李華飛訳 「我迷失在初雪上」(訳詩)
普涛 「秋風起」(詩歌)
雷石榆 「慘劇在農村」(詩歌)
瑪耶闊夫斯基作, 万提思訳 「籃宇」(訳詩)
何飛音 「爬車」(短編小說)
俞秋帆 「虚空」(隨筆)
董秋芳 「跑進危城去」(隨筆)
張秀亜 「煙」(隨筆)
歐陽麗娜(黃白瑩) 「花燭之夜」(隨筆)
南宮隼 「迷離的磁場」(隨筆)

周行 「副号小品」(随筆)
狂絲 「黑影」(随筆)
趙一蚩 「棄」(随筆)
羅詩汀 「火焰般的紅櫻桃」(随筆)
 (盧)白炎 「写給南国的朋友」(随筆)
王余杞 「抗敵，進攻！」(随筆)

第1卷第4期 1937年1月10日 (この号より『海風』に誌名変更)

「編者的話」(告知)
袁勃 「仇恨」(詩歌)
沐雨 「希望」(詩歌)
蓬麦哲 「懷鄉曲」(詩歌)
王亜平 「礼拝堂の鐘声」(詩歌)
盧白炎 「紀念」(詩歌)
虹飛 「十二月」(詩歌)
王梁彦 「江上吟」(詩歌)
木以圭 「運河岸上」(詩歌)
陳北鵬 「東北風」(詩歌)
徐寿雲 「心曲」(詩歌)
王博習 「河工」(詩歌)
魯奮 「夜」(詩歌)
張会川 「春」(詩歌)
呉星漢 「老農曝日」(詩歌)
海涅作，魏晉訳 「Epilogue」(訳詩)
高爾基作，夢回訳 「鷺鳥之歌」(訳詩)
鮮魚羊訳 「惠特曼二首」(訳詩)
許欽文 「画家陶元慶的修養功夫」(随筆)
貝貝(孟英) 「瑪耶可夫斯基」(随筆)
欧陽麗娜(黃白瑩) 「夜之歌」(随筆)
 (李)簡戎 「海河之歌」(随筆)
姚立 「失眠」(随筆)
臧克家 「新詩嚙語」(随筆)
劉西蒙 「野店」(随筆)
董秋芳 「雪」(随筆)
邵冠祥 「關於風沙夜」(創作談)
 「中国詩歌作者協会宣言」

第1卷第5・6期合刊号 1937年3月20日

(詩歌討論特輯)
邵冠祥 「獻詞」(卷頭の辭)

王統照 「談詩」(評論)
雷石榆 「詩歌的語言及表現法」(評論)
王垂平 「新詩的語匯」(評論)
劉白羽 「国防底主題並沒有激動詩人們」(評論)
John Downey 作, 董秋芳訳 「有色彩的詩」(評論)

(創作)

白荻(曹爾序) 「十二月十二日」(短編小說)
何飛音 「補票」(短編小說)

(散文, 小品)

徐壽雲 「生活的余渣」(隨筆)
(黃) 白瑩 「旅人在車上」(隨筆)
(李) 簡戎 「船渡」(隨筆)
田濤 「傍晚, 夜」(隨筆)
何其外 「關於理論」(隨筆)
邵冠祥 「『天橋』序」(詩集序文)
吳雲心 「『陋巷』序」(詩集序文)

(普希金百年祭)

曹鎮華 「紀念普式庚的幾個問題的商榷」(評論)
孟英 「普希金詩中的反抗精神」(評論)
蒲風 「普式庚在中国」(評論)

(詩選)

張会川 「幾時罷休」
廐民 「六分之一」
冀春 「船夫」
吳星漢 「瘋子」
矢原礼三郎 「夜之記錄」
甘運衡 「租界地」
虹飛 「悼」
童晴嵐 「我的心永遠是熱的」
何方 「血」
木以圭 「歲尾」
(黃) 白瑩 「斷片」
宋寒衣 「離開故国的海岸」
丹麦 「匪警」
金風 「春天的歌」
溫流 「血的路」

王博習 「二月的古城」
征驂 「逃婢」

(訳詩)

恵特曼作，万曼訳 「敲吧！敲吧！敲吧！」
斐多菲作，覃子豪訳 「我的平原」
Allen. E. Woodall 作，羅鉄鷹訳 「再」
葉賽寧作，杜宇訳 「塔瓦利西」

編者 「卷末贅語」(編集後記)

IV. 『詩訊月報』総目録

創刊号 1936年12月12日

王亜平 「戦前之歌序」(詩集序文)
王亜平 「詩歌与生活」(評論)
李靈 「評介旅程集」(評論)
沈旭 「悼魯迅先生」(詩歌)
張洛英 「狼煙」(詩歌)
蔣有林 「訓話」(詩歌)
徐寿雲 「飛逝」(詩歌)
邵冠祥 「二月」(詩歌)
陳雲門 「荒院」(詩歌)
水皮 「北征」(詩歌)
桂逢柏 「朦朧」(詩歌)
子石 「秋晨的歌」(詩歌)
田疇 「旭日頌」(詩歌)
曉黛 「歌不尽的心情」(詩歌)
羊羽 「Epigramme 三首」(詩歌)

第2号 1937年1月25日

魯奮 「野火」(詩歌)
孤帆 「給西班牙的人民陣線」(詩歌)
王博習 「脚夫」(詩歌)
余秋陽 「飢寒線上的人群」(詩歌)
？⁽⁶⁾ 「黎明前奏曲」(詩歌)
史輪 「咱們成長了」(詩歌)
甘運衡 「冬日」(詩歌)
曉黛 「昨夜」(詩歌)
張洛英 「磷火」(詩歌)

征驛 「雨」(詩歌)
張秀亜 「碎琴吟」(詩歌)
羊羽 「詩壇的風」(消息)
「一九三六年詩壇概況」(消息)
「編者的話」(編集後記)

第3号・第4号合刊 1937年3月1日

曹鎮華 「献詞」(卷頭の辞)
魯奮 「詩歌的製作」(評論)
曉黛 「失了爸爸的孩子」(詩歌)
張文麟 「年関」(詩歌)
鐘鐸 「埋没」(詩歌)
余秋陽 「漁夫」(詩歌)
英英 「獄中」(詩歌)
劉鐘祥 「死滅吧, 一顆泛濫的詩心」(詩歌)
木以圭 「金魚頌」(詩歌)
張洛英 「漁舟夜渡」(詩歌)
王博習 「荒城」(詩歌)
張樹德 「無題」(詩歌)
朱?⁽⁷⁾ 「春歌小集」(詩歌)
水皮 「憶別」(詩歌)
穆毅 「拉膠皮的」(詩歌)
趙宝 「洗衣婦」(詩歌)
黄河 「旅途上」(詩歌)
鄒録芷 「壳糧謠」(詩歌)
史輪, 伯光ほか 「紀念普式庚特輯」(詩集)
「詩壇的風」(消息)
「詩壇消息」(消息)
「山東詩壇報導」(消息)

第5号 1937年4月15日

(紀念我們的詩人溫流特輯)
袁勃 「今天天氣不好」(詩歌)
沈旭 「悼溫流」(詩歌)
史輪 「悼溫流」(詩歌)
張洛英 「哀溫流」(詩歌)
魯奮 「哭溫流」(詩歌)
(康)柔風 「村夜」(詩歌)
崔三柱 「壳花声」(詩歌)
曉黛 「活在黑暗中」(詩歌)

雷石榆 「地上的流屍」(詩歌)
冀春 「三月天」(詩歌)
衣冰 「期待著的春天」(詩歌)
慕琳 「飢餓的堅牆」(詩歌)
趙望 「捏腳的孩子」(詩歌)
余秋陽 「謳」(詩歌)
丁護 「兩條死屍」(詩歌)
蒲風, 葉可格共訳 「Alexander Pushkin 詩一章」(訳詩)
葦地 「詩壇的風」(消息)

V. 『益世報』副刊『語林・新詩專号』総目録

第1期(『語林』第1694号) 1937年7月12日

田疇 「一個懇求」(詩歌)
方殷 「我蹣跚地溜進了古城」(詩歌)
司徒澈 「過路」(詩歌)
(徐)寿雲 「黄昏對話」(詩歌)
木以圭 「賭徒」(詩歌)
穆毅 「世故」(詩歌)
周行 「小詩二首—(一)春(二)算命的」(詩歌)
康柔風 「贈別冠祥」(詩歌)
(盧)白炎 「生活的悼歌—獻給冠祥兄」(上)(詩歌)

第2期(『語林』第1695号) 1937年7月13日

(邵冠祥)⁽⁸⁾ 「天下第一閩」(詩歌)
羅鉄鷹 「盲歌者」(詩歌)
(李)簡戎 「生活的舟」(詩歌)
(盧)白炎 「生活的悼歌—獻給冠祥兄」(下)(詩歌)

VI. 「海風叢書」総目録

第1種 張秀亜『在大龍河畔』(短編小説集) 1936年12月25日

「自序」 「山鷹」 「碾」 「二月抄」 「瞎眼睛」 「在大龍河畔」 「欺騙」
「老人」 「杏子」 「父親」 「家」 「母親」 「蔓草」 「我的自白」

第2種 (李)簡戎, (黃)白瑩『海河, 夜之歌』(隨筆集) 1937年5月中旬

「題記」
(第一輯 簡戎『海河之歌』)
「海河之歌」 「兀鷹」 「村童」 「哀歌」 「夏雨」 「六月的夜」 「海豹」
「等待」 「燎原」 「晨風」 「無牆城」 「滅亡」 「船渡」

(第二輯 白瑩『夜之歌』)

「夜之歌」 「笑」 「花燭之夜」 「夜游人過古城」 「死亡」 「月夜」
「病人」 「節日」 「仲夏日」 「塞上夜」 「黃昏時的海」

第3種 邵冠祥『白河』(詩集) 1937年7月15日

「自序」 「信心」 「江潮」 「織」 「号声」 「冬夜的巷」 「祭」
「旅歌」 「黑的手」 「夜的叫壳声」 「拓荒者」 「端陽節」 「卜」
「過年」 「駱駝」 「吊海上孤魂」 「不要以為我在夜間行走」
「五月的季節」 「塘沽三月的雨天」 「我記得」 「夜市」 「天下第一関」

VII. 中国詩歌作者協會会刊『詩歌雜誌』掲載の海風社メンバーによる著作目録

創刊号 1936年10月1日

邵冠祥 「信心」(詩歌)
(黄) 白瑩 「逃婢」(詩歌)
周行 「虎兒」(詩歌)
(黄) 白瑩 「批評『風沙夜』」(評論)

第2期 1937年2月

欧陽麗娜 (黄白瑩) 「別盼」(詩歌)
(黄) 白瑩 「小孩子」(詩歌)
邵冠祥 「九月的夜」(詩歌)

第3期(「国防詩歌討論特輯」) 1937年5月

曹鎮華 「走上国防詩歌之路」(評論)
邵冠祥 「我对国防詩歌的一点意見」(評論)
(黄) 白瑩 「決絶」(詩歌)
(趙) 一蚩 「批評『我們的堡』」(評論)

VIII. 『益世報』副刊(『語林』,『益世小品』,『文芸週』,『別墅』)及び『庸報』副刊(『另外一頁』,『新茶經』)掲載の海風社メンバーによる著作目録(1936年～1937年)

王余杞 「『惜分飛』抄後記」(創作談) 益世報『語林』 1936年2月2日
徐寿雲 「光明在那裏」(隨筆) 『語林』 1936年2月7日
王余杞 「『写作問題』小引」(隨筆) 益世報『益世小品』 1936年2月9日
周謙 「『復活』批評」(評論) 庸報『另外一頁』 1936年3月10日～12日(全3回)
王余杞 「『万里游程』題記」(創作談) 『益世小品』 1936年3月22日
曹鎮華 「季候風」(短編小説) 『另外一頁』 1936年3月26日～27日(全2回)
(盧) 剛宓 「詩人的春天」(隨筆) 『語林』 1936年4月6日

- (徐) 寿雲 「苦与甜」(随筆) 『語林』 1936年4月8日
王余杞 『『百花深处』抄存後記』(創作談) 『益世小品』 1936年4月12日
(盧) 剛宓 「閑話閑居」(随筆) 『語林』 1936年4月21日
王余杞 「報紙副刊新聞化」(評論) 『益世小品』 1936年4月26日
(盧) 剛宓 「關於喝酒」(随筆) 『語林』 1936年5月2日
(徐) 寿雲 「來函照抄」(随筆) 『語林』 1936年5月6日
(盧) 剛宓 「綠意」(随筆) 『語林』 1936年5月12日
(盧) 剛宓 「万古流芳觀後感」(評論) 益世報『別墅』 1936年5月14日～15日
(全2回)
(徐) 寿雲 「黄昏」(詩歌) 『語林』 1936年6月1日
王余杞 「反抗与屈伏」(短編小説) 益世報『文芸週』 1936年6月7日
曹鎮華 「詩歌大衆化討論大綱」(評論) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・上) 1936年6月10日
邵冠祥 「詩歌大衆化的內容与形式上的檢討」(評論) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・上) 1936年6月10日
(黃) 白瑩 「詩壇情報・上」(消息) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・上) 1936年6月10日
(趙) 一蚩 「關於詩歌大衆化的我見」(評論) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・下) 1936年6月11日
(盧) 剛宓 「詩歌大衆化的趣味問題」(評論) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・下) 1936年6月11日
(黃) 白瑩 「詩壇情報・下」(消息) 『另外一頁』(天津第一次詩歌座談会專頁・下) 1936年6月11日
(李) 簡戎 『『雷雨』年齡問題算是這樣解決了』(評論) 『另外一頁』 1936年6月15日
(徐) 寿雲 「大哥的死」(随筆) 『語林』 1936年6月22日
隅檠(王余杞) 『『急湍』後記』(創作談) 『文芸週』 1936年6月28日
(徐) 寿雲 「就食者」(詩歌) 『語林』 1936年7月13日
(黃) 白瑩 「夜雨」(随筆) 『文芸週』 1936年8月9日
李靈 「閑話蝸蠃」(随筆) 『語林』 1936年8月19日
李靈 「一件小事」(随筆) 『語林』 1936年8月24日
(黃) 白瑩 「午夜小簡」(随筆) 『語林』 1936年9月4日 (「初秋的雨夜」,
「門縫裏的年紅」の2篇により構成)
(徐) 寿雲 「漫談詩歌」(評論) 『語林』(詩歌討論特輯第1輯) 1936年9月5日
(黃) 白瑩 「匪」(随筆) 『文芸週』 1936年9月6日
邵冠祥 「詩与抒情」(評論) 『語林』(詩歌討論特輯第2輯) 1936年9月19日
李靈 「罷工」(短編小説) 『語林』 1936年10月14日～11月3日(全16回)
邵冠祥 「讀自己的寫照評」(評論) 『語林』 1936年10月19日～20日(全2回)
(黃) 白瑩 「晨」(随筆) 『語林』 1936年10月22日

- (徐) 寿雲 「宴会」(随筆) 『語林』 1936年10月24日
欧陽麗娜 (黄白瑩) 「婚夜」(随筆) 『語林』 1936年10月30日
王余杞 「悲憤」(随筆) 『文芸週』 1936年11月1日
邵冠祥 「我的姓」(随筆) 『語林』 1936年11月19日
(盧) 剛宓 「雪」(随筆) 『語林』 1936年12月2日
王余杞 「『頭獎志書』自序」(創作談) 『文芸週』 1936年12月13日
王余杞 「過年有感」(随筆) 『語林』 1937年1月1日～8日(全4回)
(徐) 寿雲 「等待」(詩歌) 『語林』 1937年1月9日
(徐) 寿雲 「夜記」(随筆) 『語林』 1937年1月12日
邵冠祥 「冬夜」(随筆) 『語林』 1937年1月20日
邵冠祥 「簡評文学新詩專号」(評論) 『語林』 1937年1月23日
王余杞 「海河汨汨流」(長編小説) 『語林』 1937年2月5日～7月24日(連載1
26回で中断)
張洛英 「天津的詩壇」(評論) 『另外一頁』 1937年2月10日～15日(全3回)
張洛英 「年関」(詩歌) 『語林』 1937年2月16日
邵冠祥 「肉」(随筆) 『語林』 1937年2月17日
邵冠祥 「織」(詩歌) 『語林』 1937年2月25日
邵冠祥 「偉大」(随筆) 『語林』 1937年3月5日
曹鎮華 「吟」(詩歌) 『語林』 1937年3月8日
邵冠祥 「開玩笑」(随筆) 『語林』 1937年3月9日
徐寿雲 「野火」(詩歌) 『語林』 1937年3月9日
(李) 簡戎, (黄) 白瑩 「『海河, 夜之歌』題記」(随筆集序文) 『語林』 1937年
3月10日
(李) 簡戎 「猫」(随筆) 『語林』 1937年3月17日
曹鎮華 「晨号」(詩歌) 『語林』 1937年3月17日
張洛英 「天津的出版界」(評論) 庸報『新茶經』 1937年3月17日
張洛英 「驚耗」(随筆) 『新茶經』 1937年3月20日～21日(全2回)
(邵) 冠祥 「窃書, 不能算偷」(随筆) 『語林』 1937年3月25日
曹鎮華 「小草」(詩歌) 『語林』 1937年3月26日
張洛英 「朱光潜印象記」(訪問記) 『新茶經』 1937年4月5日
張洛英 「我所見到的熊仏西先生」(訪問記) 『新茶經』 1937年4月8日
(李) 簡戎 「黄沙天」(随筆) 『語林』 1937年4月8日
邵冠祥 「駱駝」(詩歌) 『語林』 1937年4月9日
曹鎮華 「帆」(詩歌) 『語林』 1937年4月13日
曹鎮華 「雨」(詩歌) 『語林』 1937年4月17日
邵冠祥 「夜的叫売」(詩歌) 『語林』 1937年4月20日
曹鎮華 「老人」(詩歌) 『語林』 1937年4月22日
(黄) 白瑩 「西大橋」(随筆) 『文芸週』 1937年5月2日
邵冠祥 「從天津到煙台」(随筆) 『語林』 1937年5月6日
王余杞 「過生日」(随筆) 『文芸週』 1937年5月9日

- 邵冠祥 「雨」(随筆) 『語林』 1937年5月12日
邵冠祥 「煙台の海岸」(随筆) 『語林』 1937年5月19日
張鴻基(張洛英) 「憶」(随筆) 『新茶経』 1937年5月24日
邵冠祥 「褪色的故事」(随筆) 『新茶経』 1937年5月25日
張鴻基(張洛英) 「遇」(随筆) 『新茶経』 1937年5月28日
邵冠祥 「我們為什麼要举行這次座談会」(評論) 『新茶経』(海風社主弁天津文芸座談会專頁) 1937年6月2日
(李)簡戎 「初次的聯系」(評論) 『新茶経』(海風社主弁天津文芸座談会專頁) 1937年6月2日
邵冠祥 「『晚集』題記」(創作談) 『語林』 1937年6月2日
邱野 「生活」(随筆) 『語林』 1937年6月2日
(余)秋陽 「對於鞏固天津文壇的意見」(評論) 『新茶経』(海風社主弁天津文芸座談会專頁) 1937年6月2日～3日(全2回)
邵冠祥 「評運河集」(37評論) 『新茶経』 1937年6月3日～5日(全3回)
邵冠祥 「卜」(詩歌) 『文芸週』 1937年6月13日
(李)簡戎 「星」(随筆) 『語林』 1937年6月25日
徐寿雲 「悼亡姪」(詩歌) 『語林』 1937年6月26日
邵冠祥 「關於『惡風氣』」(随筆) 『語林』 1937年6月30日
徐寿雲 「盲」(詩歌) 『語林』 1937年6月30日
王余杞 「如其有病在天津」(随筆) 『文芸週』 1937年7月4日
(徐)寿雲 「贈冠祥」(詩歌) 『語林』 1937年7月20日
(吳)雲心 「贈冠祥」(詩歌) 『語林』 1937年7月20日

IX. 『益世報』, 『庸報』掲載の海風社関連記事目録(1936年～1937年)

- 「芸壇消息」 庸報『另外一頁』 1936年5月8日 (程芝桐, 蔣有林, 錫金による『詩歌小品』の刊行計画について)
「天津詩人活躍 組織天津詩歌座談会 現正着手籌備」 『另外一頁』 1936年5月9日
「天津詩歌座談会 举行籌備会」 『另外一頁』 1936年5月27日
盧洵人 「草原詩訊兩社主弁的天津詩歌座談会印象記」 益世報『別墅』 1936年6月10日
「天津第一次詩歌座談会專頁・上」 『另外一頁』 1936年6月10日
「天津第一次詩歌座談会專頁・下」 『另外一頁』 1936年6月11日
「芸壇消息」 庸報『另外一頁』 1936年8月11日 (天津における雑誌『詩歌小品』の刊行計画について)
「詩歌小品徵友徵稿借地啓事」 益世報『語林』 1936年9月2日
「詩歌小品借地啓事」 『另外一頁』 1936年9月10日
「詩歌討論特輯第1輯」 『語林』 1936年9月5日 (海風社メンバー徐寿雲の評論「漫談詩歌」掲載)

- 「詩歌討論特輯第2輯」 『語林』 1936年9月19日 (海風社メンバー邵冠祥の評論「詩与抒情」掲載)
- 「出版紹介 海風詩歌小品」 『另外一頁』 1936年9月30日
- 「詩歌小品出版」 『另外一頁』 1936年10月15日
- 「詩歌小品 現已出版 内容豊富」 『別墅』 1936年10月16日
- 羊谷 「詩歌小品読後」 『語林』 1936年10月16日
- 「芸壇消息」 庸報『另外一頁』 1936年10月25日 (海風社等による「魯迅先生記念会」開催の予定について)
- 「詩歌小品 第二期即出版 内容益為豊富」 『別墅』 1936年10月31日
- 「出版紹介 詩歌小品 第二期要目」 『另外一頁』 1936年10月31日
- 「津文芸団体 追悼魯迅」 『另外一頁』 1936年11月1日
- 伯克 「詩歌小品創刊号批判 一」 『另外一頁』 1936年11月4日
- 伯克 「詩歌小品創刊号批判 二」 『另外一頁』 1936年11月5日
- 伯克 「詩歌小品創刊号批判 三」 『另外一頁』 1936年11月6日
- 「海風詩歌社 力謀整頓」 『另外一頁』 1936年11月6日
- 「介紹欄 詩歌小品 第二期已出版」 『別墅』 1936年11月10日
- 「『詩訊日報』⁽⁹⁾ 創刊号將出版」 『別墅』 1936年11月24日
- 「詩訊月報 借地徵稿」 『另外一頁』 1936年11月25日
- 「詩歌小品 即將出版」 『別墅』 1936年11月27日
- 「詩歌小品 第三期將出版」 『另外一頁』 1936年11月29日
- 「『詩訊月報』 即將出版」 『另外一頁』 1936年11月30日
- 「介紹欄 詩訊月報將出版 内容充實」 『別墅』 1936年11月30日
- 「詩歌小品 第三期已出版」 『別墅』 1936年12月12日
- 「詩歌小品 第三期出版」 『另外一頁』 1936年12月12日
- 「『詩訊月報』 已於昨日出版」 『另外一頁』 1936年12月13日
- 鳳子 「中国詩壇的兩個新問題」 『另外一頁』 1936年12月18日 (海風社、『詩歌小品』に関する記述あり)
- 「詩訊月報 現已出版 内容精彩」 『另外一頁』 1936年12月21日
- 伯克 「『詩歌小品』 十二月号批判 上」 『另外一頁』 1936年12月21日
- 伯克 「『詩歌小品』 十二月号批判 中」 『另外一頁』 1936年12月22日
- 伯克 「『詩歌小品』 十二月号批判 下」 『另外一頁』 1936年12月23日
- 「海風叢書之一 在大龍河畔」 『另外一頁』 1936年12月29日
- 「海風叢書之一『在大龍河畔』 張秀亜作 現已出版」 『別墅』 1936年12月30日
- 「『海風詩歌小品』 已出版 内容甚為豊富」 『別墅』 1937年1月11日
- 「海風詩歌小品 第四期出版」 『另外一頁』 1937年1月17日
- 「詩訊月報 借地啓事」 『另外一頁』 1937年1月17日
- 肖華 「天津出版界 回顧与前瞻 上半」 『另外一頁』 1937年1月17日 (『詩歌小品』、『詩訊月報』に関する記述あり)
- 肖華 「天津出版界 回顧与前瞻 下半」 『另外一頁』 1937年1月18日
- 水皮 「在大龍河畔 一」 『另外一頁』 1937年1月22日

与小田：海風社関連資料総合目録及び解題

- 水皮 「在大龍河畔 二」 『另外一頁』 1937年 1 月23日
水皮 「在大龍河畔 三」 『另外一頁』 1937年 1 月24日
水皮 「在大龍河畔 四」 『另外一頁』 1937年 1 月25日
「邵冠祥的一个声明」 『另外一頁』 1937年 1 月25日
「海風 第五六期合刊三月一日出版」 『別墅』 1937年 1 月28日
「野火詩刊徵稿」 『別墅』 1937年 1 月29日 （『詩訊月報』の『野火詩刊』への誌名変更を予告）⁽¹⁰⁾
「介紹 詩訊月報 第二期已出版 内容甚為充実」 『別墅』 1937年 1 月29日
「海風將出合刊」 『另外一頁』 1937年 1 月29日
司徒珂 「評『詩訊』」 『另外一頁』 1937年 2 月 4 日
「『詩訊月報』出版展期」 『另外一頁』 1937年 2 月14日
「詩訊月報 積極徵稿」 『別墅』 1937年 2 月14日
「詩訊月報 借地啓事」 『另外一頁』 1937年 2 月16日
「海風 五六期合刊將出版」 『別墅』 1937年 2 月21日
「海風 五六期合刊 不日將出版」 『另外一頁』 1937年 2 月24日
「出版介紹 詩訊月報 三四期合刊 定下月出版」 『另外一頁』 1937年 2 月25日
綠蔭 「平津出版界」 『另外一頁』 1937年 2 月26日 （『詩歌小品』、『詩訊月報』に関する記述あり）
「『詩訊月報』 三四期合刊已出版」 『別墅』 1937年 3 月 3 日
「海風 五六期合刊 已於昨日出版」 庸報『新茶經』 1937年 3 月21日
「海風 五六期合刊已出版」 『別墅』 1937年 3 月21日
「『詩訊月報』哀悼特輯徵稿」 『新茶經』 1937年 3 月23日
邱野 「海風 第五六期評論」 『語林』 1937年 3 月30日
「詩訊 即將出版内容充実」 『別墅』 1937年 4 月 1 日
「詩訊 不日出版 内容充実」 『新茶經』 1937年 4 月 5 日
李彥文 「天津文壇動向」 『新茶經』 1937年 4 月 7 日 （海風社の組織改革に関する記述あり）
「海風社借地啓事」 『語林』 1937年 4 月10日
張羅 「国内詩壇報導」 『新茶經』 1937年 4 月19日 （『詩歌小品』、『詩訊月報』に関する記述あり）
「文化圈」 『別墅』 1937年 4 月22日 （『詩歌小品』合訂本出版に関する情報あり）
司徒克 「評詩訊 上」 『新茶經』 1937年 4 月24日
司徒克 「評詩訊 中」 『新茶經』 1937年 4 月25日
司徒克 「評詩訊 下」 『新茶經』 1937年 4 月26日
「『海河夜之歌』現已出版」 『別墅』 1937年 5 月13日
張羅 「天津文壇的展望」 『新茶經』 1937年 5 月18日 （海風社の動向に関する記述あり）
「天津文芸青年座談会 海風社主弁」 『新茶經』 1937年 5 月25日
「海風社主弁 天津文芸座談会專頁」 『新茶經』 1937年 6 月 2 日

「文化消息」 『別墅』 1937年6月13日 (海風社の組織改革に関する記述あり)
「海風社 召開幹事大会 商討社務進行」 『別墅』 1937年6月21日
「天津 詩歌作者協会 本月四日開成立大会」 『別墅』 1937年7月3日
「天津詩歌作者協会 已正式成立 徵同志参加」 『別墅』 1937年7月7日
「海風新詩專号 在本版出刊兩天」 『語林』 1937年7月10日

注

- (1) 海風社結成の経緯、活動の詳細等については、拙稿「陥落直前期の天津における海風社の活動」(『九州中国学会報』第41巻 2003年5月)を参照。
- (2) 「編者の話」 『詩歌小品』第1巻第2期 1936年11月10日
- (3) 『海風』第1巻第5・6号合刊に掲載の広告によれば、10種の内訳は次の通りである。(李)簡戎・(黄)白瑩『海河、夜之歌』(隨筆集)、邵冠祥『白河』(詩集)、張秀垂『在大龍河畔』(短編小説集)、虹飛『洋溪集』(詩集)、江岳浪『戰曲』(詩集)、王博習『天橋』(詩集)、徐寿雲・洪紹秉・羅詩汀『三人草』(詩集)、劉西蒙『野店』(隨筆集)、田濤『紅馬』(短編小説集)、周行『交差集』(隨筆集)。
- (4) 同書の奥付には「2月25日出版」と記載されているが、その前後の時期には同書刊行に関する報道が全くなく、5月13日の『益世報』副刊『別墅』で初めて「印刷完了」との報道がなされたことから、実際に刊行されたのは、37年5月中旬と思われる。
- (5) 第1巻第2期では、作者名が「万曼」になっているが、翌第3期に「万方」に訂正する旨の記事が掲載されている。
- (6) マイクロフィルム不鮮明のため、作者名判読不能。
- (7) マイクロフィルム不鮮明のため、作者名の一部が判読不能。
- (8) 詩集『白河』(「海風叢書」第3種)にも収録された邵冠祥の作品であるが、ここでは作者名が記載されていない。
- (9) 『詩訊日報』となっているが、明らかに『詩訊月報』の誤りである。
- (10) この後に刊行された第3号・第4号合刊、第5号でも誌名は『詩訊月報』のままで、実際には変更されていない。